

各関係機関団体の長  
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長  
(福岡県病虫害防除所)

令和3年度病虫害発生予察技術情報第4号について (送付)

このことについて、病虫害発生予察技術情報第4号 (イチゴのハダニ類) を発表したの送付します。

**技術情報第4号**

1 対象作物名 : イチゴ

2 病虫害名 : ハダニ類

3 これまでの発生状況

7月5半旬調査の結果、発生ほ場率は平年並であったが、寄生株率は12.6%と過去10年間で最も高かった(図1、図2)。なお、ほ場間差は非常に大きく、寄生株率は0%から92%まで認められている。

- ・寄生株率 12.6% (平年 5.4%、前年 3.4%)
- ・発生ほ場率 38.5% (平年 44.8%、前年 15.4%)

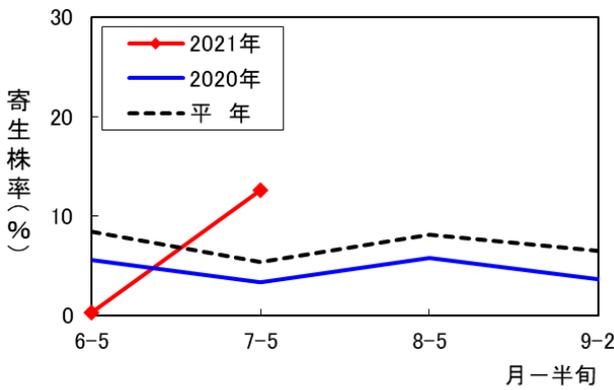


図1 ハダニ類の寄生株率の推移

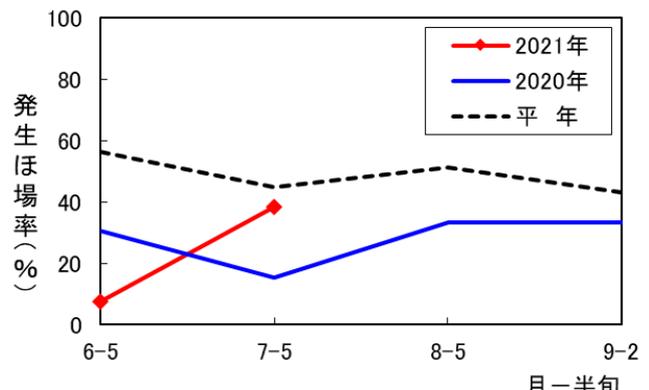


図2 ハダニ類の発生ほ場率の推移

4 防除上注意すべき事項

- (1) 本ほでの発生は育苗期からの持ち込みが主な原因である。夜冷短日処理や低温暗黒処理を行う場合は、入庫前に必ず防除を行い、本ほに持ち込まないようにする。
- (2) ほ場内や周辺の除草を徹底し増殖源を絶つ。除去した雑草はほ場内に放置せず、ビニル袋等に入れてほ場から持ち出し、処分する。
- (3) 発生した株は葉かきを強めに行い、寄生葉を取り除くよう努める。摘葉した葉はほ場内に放置せず、ビニル袋等に入れてほ場から持ち出し、処分する。
- (4) 多発後は防除が困難になるので、発生状況に注意し、発生初期の防除を徹底する。なお、防除は摘葉後に行うと効果的である。
- (5) 薬液がかかりやすいよう、苗は十分な間隔を置いて並べ、葉裏に薬剤が十分かかるよう、丁寧な散布を心がける。
- (6) ハダニ類に登録のある薬剤の多くは浸透移行性に乏しいため、必要に応じて展着剤を加用する。

- (7) 薬剤感受性が低下しているため、同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- (8) 気門封鎖剤は、卵に効果が低い剤もあり、残効性も短いので、複数回散布する。

福岡県病害虫防除所ではQRコードを作成しています。携帯電話のQRコードリーダーでスキャンして頂くと、病害虫防除所ホームページに簡単にアクセスできますので、御利用下さい。

